

| 番組ID | タイトル | 放送時間 | 内容 |
|--------|---------------------------|-------------------|---|
| N01252 | 大毎ニュース 527 東京に高潮がきたら | 105秒 1961/8/30 | 台風シーズンを迎え、1961年8月24日東京の江東地区では総合防災訓練が行われた。ゼロメートル地帯の人たちは訓練とはいえ真剣。伊勢湾台風級の高潮が東京を襲ったら、亀戸駅前ガードすれすれまで水没、浅草の仲見世はお店の庇まで、銀座通りは交通整理のお巡りさんの首まで水が上がって、大東京の大半は泥の海になってしまう。今もなお、水面下の恐怖にさらされている江東地区デルタ地帯では台風の来ぬ間に補修工事が急がれている。工事は去年から始まり10年計画だが、自然の猛威は工事の完成まで待ってくれない。台風シーズンを前に心細い大東京の無防備地帯。 |
| N01257 | 大毎ニュース 528 東京に地震が起きたら | 157秒 1961/9/6 | 長野県松代の地震観測所では今日も地味な観測が行われている。粗末な設備のため観測員のなり手がなく欠員が増える一方。ダム耐震実験をする電力会社、建物の震動実験をする建築会社、それぞれ地震の被害を防ぐため研究が進められている。しかし都会は、こうした優れた研究が行われていながら地震に対して安全とはいえない。もし東京に大きな地震が起きたら1万7千戸は灰になると予想される。大正12年の関東大震災では1万3千戸が全壊、22万戸が灰になり、猛火の下6万人の生命が失われた。あれから38年、当時に比べ消火力は発達し防災訓練もたけなわだが、消防車も入れぬ狭い路地が至る所入り組んで、都市消防は赤信号を告げているのが今日のマンモス東京の姿だ。 |
| N01984 | 大毎ニュース 725 にっぽん昨日今日 地震の教訓 | 176秒 1965/6/16 | 北陸の玄関口福井市。ここは郷土色豊かな越前竹人形と、きめの細かい越前羽二重で代表される織物の町。昭和23年(1948)6月28日、福井市はマグニチュード7.3の大地震に見舞われ、一瞬にして廃墟と化し、死者876名、被災者は6万人にも達した。あれから17年、見違えるほど立派になった福井市。地震の教訓を生かし道路は広げられ、街路樹や花を植えて美しい町造りが進められている。また下水道の完備が急がれ、今では市街地の60%に下水道が行きわたり、日本一の普及率を誇っている。市内の養老院と孤児院では毎月必ず退避訓練を行い、いつまたやって来るかも知れない天災に備えている。戦災と度重なる災害を契機として徹底した都市計画を断行し、防災モデル都市として立ち直った福井市は、昭和43年(1968)の国体を目指して、新しい町造りの意欲に燃えている。 |
| N02341 | 大毎ニュース 833 今日の群像 よみがえる災害地 | 213秒 1967/7/13 | 去年7月、新潟県を襲った集中豪雨のため加治川の堤防が決壊、米どころの北蒲原平野は一面の泥海と化した。あれから1年、今年も水害の季節がやってきた。方々の村では防災訓練が始まった。去年から始まった加治川の改修5ヶ年計画でまず上流に洪水調整の治水ダムを造ることになり、測量班が調査を進めている。延々10里に及ぶ4000本のもの桜で有名な桜堤は、桜の根で地盤が緩み決壊の原因となったため、樹齢50年の大木が切り倒され、コンクリートの護岸堤になろうとしている。工事は7月いっぱい完成を目指して急ピッチ。新水路の河床となる西名柄地区の人々は家を壊して移転の準備に忙しい。移転先は1キロ離れた田圃の中。家はまだ完成していないが、人々は昨年水害に懲りて早々と新居に移っている。大水のたびに濁流に洗われた西名柄の人々は今ほっとした表情で田の草取りに精を出している。 |
| N02466 | 大毎ニュース 878 カメラ・レポート 十勝沖地震 | 276秒 1968/5/22 | 1968年5月16日、十勝沖地震はマグニチュード7.8という関東大震災なみの強さで東北、北海道地方を襲った。函館では鉄筋コンクリート4階建ての函館大学本館の1階が押しつぶされた。青森では、棧橋の時計がその時刻を示して止まっている。青函連絡船の待合室の床が抜け落ち棧橋は使用不能となるほど痛めつけられた。十和田電鉄三本木駅は崩れ落ち事務所は電車の中に仮住いという有様。殆ど終わりかけていた東北本線の複線化も各所で地盤が沈下。青森～盛岡間42駅のうち全く被害を受けなかったのは4区間。五戸町では3日間降り続いた雨で方々で山崩れ。八戸市上七崎でも山崩れで5人が死亡、「1968年十勝沖地震」は広範囲にわたって深い爪跡を残している。 |

| 番組ID | タイトル | 放送時間 | 内容 |
|--------|----------------------------|------------------|--|
| N02472 | 大毎ニュース 880 カメラ・レポート 震災地その後 | 235秒 1968/6/5 | 十勝沖地震で山が崩れた青森県五戸町志戸岸。もう半月も経つというのに、赤坂さんは妻の遺体を捜し続けている。まだ避難命令が解除されていない八戸市鷹野巣地区は人影もない。16世帯96人はまだ山の上で不自由なテント生活を送っている。長いテント生活は子供や老人の身体にこたえる。十勝沖地震はまだ終わっていない。田畑の半分はまだ土砂に埋まったまま。当局はこの土地を秋までに復旧出来ないという。毎月繰り返される災害対策の集会。語る言葉も尽きた。震災後16日目、やっと避難命令が解除された。山から下りた人々は荷物を片づける暇もなく田んぼに出た。かすかな希望を抱いて田植えが始まった。震災とそれに続く冷害への不安、この秋の収穫を思うと農民たちの心は暗い。 |